



JAくしろ丹頂
広報誌

vol.52
2012.1

くしろ丹頂

賀
春

鶴居村中幌呂から望む日の出

CONTENTS

- 新年のごあいさつ
組合長理事 瀧澤 義一 ————— 1
北海道農業協同組合中央会会長 飛田 稔章 — 2
代表理事専務 對木 範誉 ————— 3
常務理事 松井 俊治 ————— 4
- 組合員組織 ————— 5・6
- 組織機構図 ————— 7・8
- 年始日程表 ————— 9

参 事	員 外 監 事	監 事	代 表 監 事	〃	〃	〃	〃	〃	〃	理 事	信 用 担 当 理 事 兼 参 事	常 務 理 事	代 表 理 事 専 務	組 合 長 理 事
他 職 員 一 同	寄 上 戸 田 坂 井 澤 出 藤 下 橋 原 井 木 澤	通 泰 計 博 博 改 清 澄 隆 勉 雄 光	宮 村 瀬 尾 大 田 芳 井 武 松 高 梶 松 對 瀧	寄 上 戸 田 坂 井 澤 出 藤 下 橋 原 井 木 澤	通 泰 計 博 博 改 清 澄 隆 勉 雄 光	寄 上 戸 田 坂 井 澤 出 藤 下 橋 原 井 木 澤	通 泰 計 博 博 改 清 澄 隆 勉 雄 光	寄 上 戸 田 坂 井 澤 出 藤 下 橋 原 井 木 澤	通 泰 計 博 博 改 清 澄 隆 勉 雄 光	寄 上 戸 田 坂 井 澤 出 藤 下 橋 原 井 木 澤	通 泰 計 博 博 改 清 澄 隆 勉 雄 光	寄 上 戸 田 坂 井 澤 出 藤 下 橋 原 井 木 澤	通 泰 計 博 博 改 清 澄 隆 勉 雄 光	寄 上 戸 田 坂 井 澤 出 藤 下 橋 原 井 木 澤

謹んで新春の
お慶びを申し上げます



新年にあたり

釧路丹頂農業協同組合

組合長理事

瀧澤 義一



組合員の皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、我が国にとって忘れない、いや忘れてはならない年となりました。

三月十一日に発生した大地震・大津波は未曾有の大災害となり、一瞬にして東北地方の多くの生命を奪い去り、家屋・車輛・土地を破壊しました。ほぼ同時に発生したであろう東京電力福島第一原子力発電所の事故は、放射性物質の漏出という最悪の事態を招いてしまいました。この大参事は、放射能に汚染された地域に留まらず、あらゆる分野でこれを起因とする問題が発生しております。特に食料を生産供給する農畜産業・食品産業への影響は計り知れないものがあり、安全安心の信頼性の回復

は、永続的に取り組んでいかなければいけない最大課題であります。

このような国難ともいえるべき状況の最中に野田首相は、T P P (環太平洋連携協定) への参加について、関係国との協議に入る事を表明し、私共J Aグループが断続的に反対集会を開催するなどして貫いてきた「断固反対」の声は届きませんでした。

T P P は、加盟国間の高レベルの関税撤廃を目指すものですから、我が国の伝統文化を崩壊させるリスクが高く、特に農業においては、壊滅的影響を受けるのは必至であろうと予見されております。引き続き「T P P 参加断固阻止運動」を展開していきますが、国内情勢は予断を許さない状況であります。さて、以上述べましたような環

境下での昨年の営農でありましたが、一昨年夏以降の猛暑の影響による分娩時期の遅れは、生乳生産の大幅減少となり、生産資材価格の高止まりと相俟って一昨年以上の経営収支の悪化という結果になっております。二十三年度乳価はプールで二円二十銭ほど上がっておりますが、減産により打ち消された状況であります。

十二月七日に開催したホクレン生乳受託販売委員会において、二十四年度の生乳受託販売方針を決定しておりますが、我が国の生乳生産を主体的に担う北海道酪農が、今後とも持続的に発展するために「酪農生産基盤の拡充」を図るとともに、消費者から支持される北海道牛乳・乳製品の「ブランド力」をより強固なものとするべく販売戦略強化を図る事とし、

- (1) 酪農経営の安全ならびに生産基盤の拡充を旨としたプール乳価の確保を図る。
- (2) 「第8期生乳安定生産対策」に基づく、計画生産目標数量の完全販売を図る。
- (3) 国産生乳に市場優位性がある用

途の拡大を一層推進するとともに、生乳需給の動向に応じた用途別取引を図る。

(4)(5) 省略

以上対策に重点的に取り組む事としました。

私もホクレン副会長・酪農畜産担当役員として初の乳価交渉となりますが、酪農生産現場の日々の苦悩を念頭に、この難局を乗り越え、明日に希望を託せる乳価実現に向けて、陣頭指揮にあたる決意であります。

私が札幌で常勤となったところから、釧路丹頂農協の組合員皆様・役職員には多大な御迷惑をお掛けしておりますが、連合会役員として北海道農業・酪農畜産の安全と充実発展に尽力する事が、ひいては農協経営の安定・組合員経営の維持向上と生活の安定に寄与できる事と考え、努力を惜しまない所存であります。

新年にあたり、皆様の御健勝を祈念し、御挨拶いたします。



年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会



会長 飛田 稔章

組合員をはじめJA役職員の皆様方が、希望に満ちた平成二十四年の新春をご家族とともに迎えられることを心からお慶び申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先には低温・日照不足等による生育の遅れが心配されましたが六月には天候が回復に向かい、降雹被害や台風による被害などによって地域や作目による差はあるものの、組合員・JAの努力が報われ相対的には平年に近い出来秋となりました。さて、東日本大震災から九箇月以上が経過しましたが、復興への道筋は決して容易なものとはなっておらず、また原発事故の収束にも目途が立たず、全国の農業者や消費者は不安な日々を抱えています。JAグループは、今後とも食料供給基地である被災地の復興に向けてあらゆる支援を続けていく

こと、政府の指導のもとで安全・安心な農畜産物を安定的に消費者の皆様にお届けすることに、今こそ協同組合の精神である「絆」を大切にする価値観のもとで、総力を挙げて取り組むことが必要です。また、環太平洋連携協定（TPP）に関しJAグループ北海道は、与野党国会議員に対する要請を行ない、昨年十一月四日に札幌市で「ともに考えよう『この国のかたち』TPP交渉問題を考える道民集会」を開催しました。野田首相がAPPECに向け「交渉参加に向けて関係各国との協議を開始し、各国が我が国に求めるものについて、さらなる情報収集に努め、十分な国民的な議論を経た上で、あくまで国益の視点に立つてTPPについての結論を得る」との方針を表明したことは、議論が全く成熟していない段階での見切り発車

の何ものでもなく、JAグループ北海道として強く抗議しました。この問題は、まさに「この国のかたち」のゆくえが憂慮される事態であり、組合員の営農と生活を守るためにも政府の暴走を断じて許すことはできません。お金を出せば食料を確保できる時代ではなく、経済成長と引き替えに国民生活の安全・安心を損なう国政はあってはなりません。今後もTPP交渉参加の正式表明を断固阻止するため、国民的理解の醸成に向けて北海道の総力を挙げて強力な運動を展開してまいります。さて、本年は「協同の力で築く『明日の食をささえる北海道農業』」を主題に開催した第二十六回JA北海道大会決議事項の実践最終年を迎えます。大会決議事項の「北海道農業の潜在能力のフル発揮への挑戦」は、国民の命の根源である食料生産を担う組合員が安心して農業経営に従事し、さらなるステップアップを図り、食糧自給率の向上に寄与し安全・安心な農畜産物の安定供給を通じて、消費者の皆さんに北海道農業を応援していただくための取り組みです。JA経営では「協同と信頼の絆で

築く新時代のJA」の実践によって、経営の健全化と強靱な経営基盤を確立し、組合員の期待に応じられる高度な事業機能を有するJAとなることをめざすものであります。また、国連は平成二十四年を国際共同組合年とすることを宣言しました。「協同組合がよりよい社会を築きます」のスローガンのもと、協同組合の社会的役割・意義をアピールしていきましょう。今後、景気の低迷や農業貿易交渉等の進展によつては、農業への影響が大きく懸念されますが、全道の組合員の皆様をはじめJA役職員が「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念をよりどころにして、JAへの結集を強め協同運動を強力に展開することにより、この苦境を打開し未来を切り開くものと確信しております。

本年も災害がなく、豊穡の出来秋を迎えることができ、北海道農業の発展と成長をめざし飛躍の年となりますよう心から祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。



新年にあたり

釧路丹頂農業協同組合

代表理事専務

對木 範登



新年、明けましておめでとうございます。

組合員の皆様には、平成二十四年の輝かしい新年を、ご健勝で迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年の六月二十一日のホクレンの通常総会において、瀧澤組合長が代表理事副会長に就任された事に伴い、臨時総会を開催し定款の一部変更の決定をいただき、新たな常勤執行体制で進めてまいりましたが、この間の組合員の皆様及び関係機関のご指導とご協力に改めて感謝とお礼を申し上げます。

昨年の農業、農協を取りまく情勢は、一昨年の口蹄疫の発生、記録的な猛暑に続き、数百年・千年に一度と言われる、三月十一日の東日本大震災の発生で、二万人弱の尊い命が奪われ、甚大な被害をもたらし更には、東京電力福島第一原発事故によるセシウム問題で

農業被害はもとより、国民に大きな不安を与えている現状にあります。

今、政府に求められているものは、東日本大震災と原発事故からの、復旧・復興に全力を尽くす事であると考えます。にもかかわらず九月に菅内閣から野田内閣にかわった途端、TPP問題が再浮上して来しました。一千万人を超える反対署名、三百人以上の国会議員が、慎重論を唱えているにもかかわらず、十一月十一日の野田総理の会見で「TPP交渉参加に向けて関係国との協議に入る」と表明した事に強い怒りを感じる所であります。工業品も食料品も関税は低く、食料の海外依存度が60%に達する程世界で最も「開国」された我国において、TPPに参加して更に「開国」を徹底するというのは、国家存立の「最後の砦」を

自ら明け渡す様なものです。「ゼロ関税」と「強い農業」は両立しません。農産物をはじめ食品の安全基準の緩和や遺伝子組み換え食品の表示義務の撤廃も求められます。公的医療保険の崩壊、外国人雇用の増大など、国民生活の根幹に関わる問題を、国民に説明をせずに推進している事に、我々は、最終決定をするまで消費者への理解を求めながら反対姿勢を貫いていきます。

さて、当JAにおいては、一昨年の猛暑の影響を鑑み、二十三年度の事業計画に独自の対策として、いち早く生乳生産強化対策を講じた所ではありますが、組合員の営農中止、予想以上に猛暑によるダメージが大きく、生産が伸び悩んでおりましたが、十月中旬以降ようやく、回復の兆しが見えてきました。

粗飼料においては、八月上旬までの好天にも恵まれ、一番草は品質・量共、十分確保できた事と思えます。年、八月後半からの天候不順・台風の影響で、二番草・デントコーンの収穫が遅れ、品質・嗜好性の低下が懸念される所ではありますが、今後の乳量回復・増産

に期待をする所であります。

一方、組合員のクミカン精算においては、期中での乳価の値上げはありましたが、前半の生乳生産の伸び悩み、配合飼料・燃油等の高騰、更には稲ワラ問題で安愚楽畜産の破綻等の影響で重要な副産物である肉子牛、和牛等の肉用牛、また牧草ロール価格の下落等、前年にも増して厳しい結果となりました。

新年度営農計画では、生産体制の立て直しと経営収支の改善のため経営管理の徹底、コスト削減等農家戸々のより一層の努力が必要な年となりそうです。そんな厳しい状況の中、これ以上営農組合員の減らさぬ様、今後共JAが組合員の期待に応え、農業経営の安定と向上を目指し、役職員一丸となり日々努力する事が使命である事を再認識し、組合員の皆様と共に決意を新たにし取り組んで参る所存ですので、引き続きご指導とご協力を賜ります様宜しくお願い申し上げます。

皆様にとりまして本年がご健勝でご多幸の一年となります様、心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



新年を迎えて

釧路丹頂農業協同組合

常務理事

松井 俊治



新年、明けましておめでとうございます。

組合員の皆様には、平成二十四年の希望に満ちた新年を御家族とともに迎えられる事を、心からお慶び申し上げます。

昨年六月二十五日の理事会において、農協常勤役員の変更があり、不肖、私が常務理事に選任され、その職務の重圧を痛感しながら常勤役員として約六ヶ月が経過しましたが、その間組合員及びJA役職員の皆様には御指導と御協力を頂き、改めて感謝と御礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返る時に、決して忘れる事ができないのが、東日本大震災であり、津波によってすべての物が何もかも流されて行くテレビの映像は、記憶の中に今でも鮮明に残っております。又、東電の原発事故による放射能漏れの影響で、東北・関東地方の農家は甚大な被害を被った所であります。

この地域の酪農家の生乳廃棄の量が四万二千ト、約四十二億円もの乳代損失になりました。内地では牛乳が足りなくなり、生乳の道外移出が増大し、その影響でバター不足になり、八月には農水省が業務用バター二千トを緊急輸入する事態になりました。又、放射性セシウムが稲わらから検出され、F1・ホル初生牛の価格が暴落し組合員の経営にも大きな影響を与えた所であります。十一月に農協役員で、福島・宮城両県を視察して来ましたが、まだまだ震災の爪痕はあちこちに残っており、一日も早い復興を願うばかりであります。又、初めて北海道で開催される予定であった、第十三回全日本ホルスタイン共進会も一昨年は口蹄疫の影響で延期になり、今年は震災の影響で止む無く中止となり大変残念な思いであります。

さて、政治情勢に目を向けますと、一昨年の菅前首相のTPP参加発言か

ら我々は幾度となく反対集会を開き交渉参加断固阻止の意志を貫いて来ましたが、東日本大震災の復興の為、TPP問題は先送りかと思われましたが、野田首相の交渉参加に向けた協議入り表明で再浮上した所であります。TPPは日本の国のかたち(伝統・文化・文明)を変えてしまうものであります。藤原正彦氏(国家の品格の著者)の一文を失敬して、「日本人は昔からすぐれた民族であります。それは日本には四季がある様に、とても美しい国だからです。その美しい自然や風景を維持する役目があるのが農業であり、日本農業を崩壊させるTPPなど絶対許してはいけないのであります。日本人は今こそ祖国への誇りを取り戻し、伝統ある輝かしい価値観を再認識する必要があるのです。」と。TPP問題には農業団体ばかりでなく、あらゆる関係団体と連携のもと、今後とも継続して交渉参加に断固反対してまいります。

その様な状況の中、昨年の農業情勢は、春先の低温、日照不足から心配されていた一番牧草・デントコーンも夏には回復し、量・質とも十分な収穫がありました。又、乳価は二円、補給金は十銭の値上げとなり、JAも生乳生産基盤強化対策事業として乳牛の保留・導入の支援をし、約三千三百万円

の助成を行い増産に向け取り組んできましたが、一昨年の猛暑の影響で分娩時期がずれた事により、生乳生産は思う様に伸びず、目標乳量達成には厳しい年となりました。又、配合価格の高止まり、肥料・燃料などの上昇も響き、全道の酪農家の半数以上がクミカン赤字の中で、当JA組合員も例外ではなく深刻な問題であります。生乳受託販売委員会では、今年度から年間四百万トの生乳生産を目標に掲げ、JAくしる丹頂も「JA中期経営計画」の中で生乳生産十二万五千ト販代百億円を目標としております。それらの目標達成の為、又酪農家に生産意欲を高めてもらう為、連合会には更なる乳価値上げの方向で早期に決着してもらえる様にJAとしても積極的に働きかけ、又JA独自の増産対策も併せて実行できる様に考えている所であります。

今年も農業を取り巻く情勢は厳しいものになると推測されます。組合員の皆様も今こそ農協に結集して頂き、JAくしる丹頂も役職員一丸となつて組合員経営の安定と向上の為に、又農業及び地域社会の振興に貢献して行きたいと思っております。

皆様にとつて本年が飛躍の年になります様に、心から御祈念申し上げ、新年の御挨拶と致します。

J A くしろ丹頂組合員組織

あけましておめでとうございます。

釧路丹頂農協女性部

部長 峯田 弘子

釧路丹頂農協青年部

部長 菱沼 和也

釧路丹頂農協酪農振興会

会長 竹中 憲之

釧路丹頂農協肉牛振興会

会長 成田 俊英

釧路丹頂農協馬事振興会

会長 江崎 勝三

釧路丹頂農協乳牛改良同志会

会長 瀧澤 一成

外国人研修生受入協議会

会長 竹中 憲之

幌呂大型機械利用組合

組合長 大 裕 晋 二

鶴居宮農組織代表者協議会

会長 斉藤 滋

鶴居村乳牛検定組合

組合長 松井 俊治

J A くしろ丹頂組合員組織

本年もよろしくお願い申し上げます。

鶴居村酪農ヘルパー利用組合

組合長 高橋 文雄

白糠町乳牛検定組合

組合長 田口 秀男

白糠町酪農ヘルパー利用組合

組合長 五十嵐 政敏

音別町酪農ヘルパー利用組合

組合長 山田 巧

白糠町野菜生産組合

組合長 平賀 幹夫

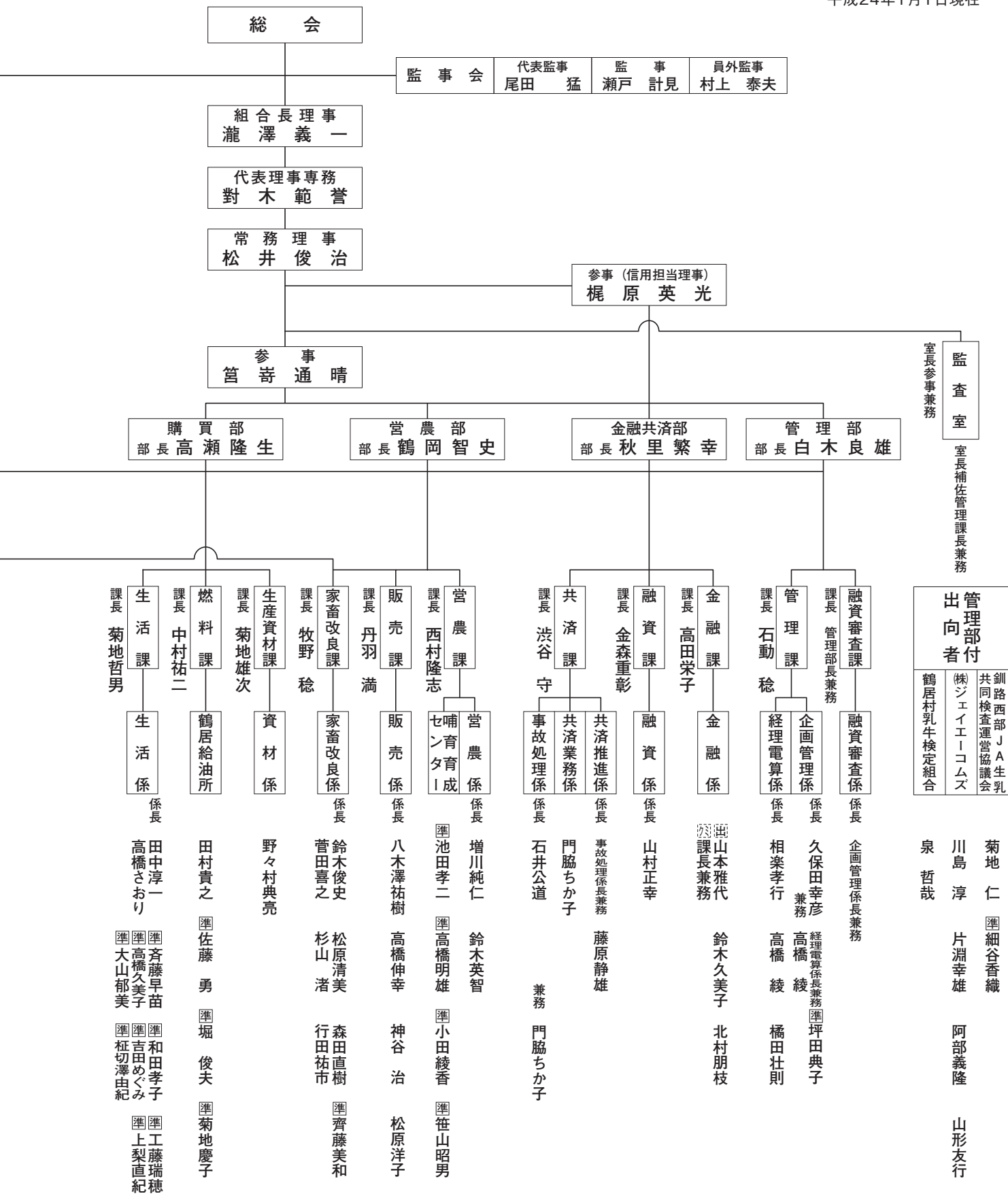
白糠町農民組合

執行委員長 芳澤 浩一

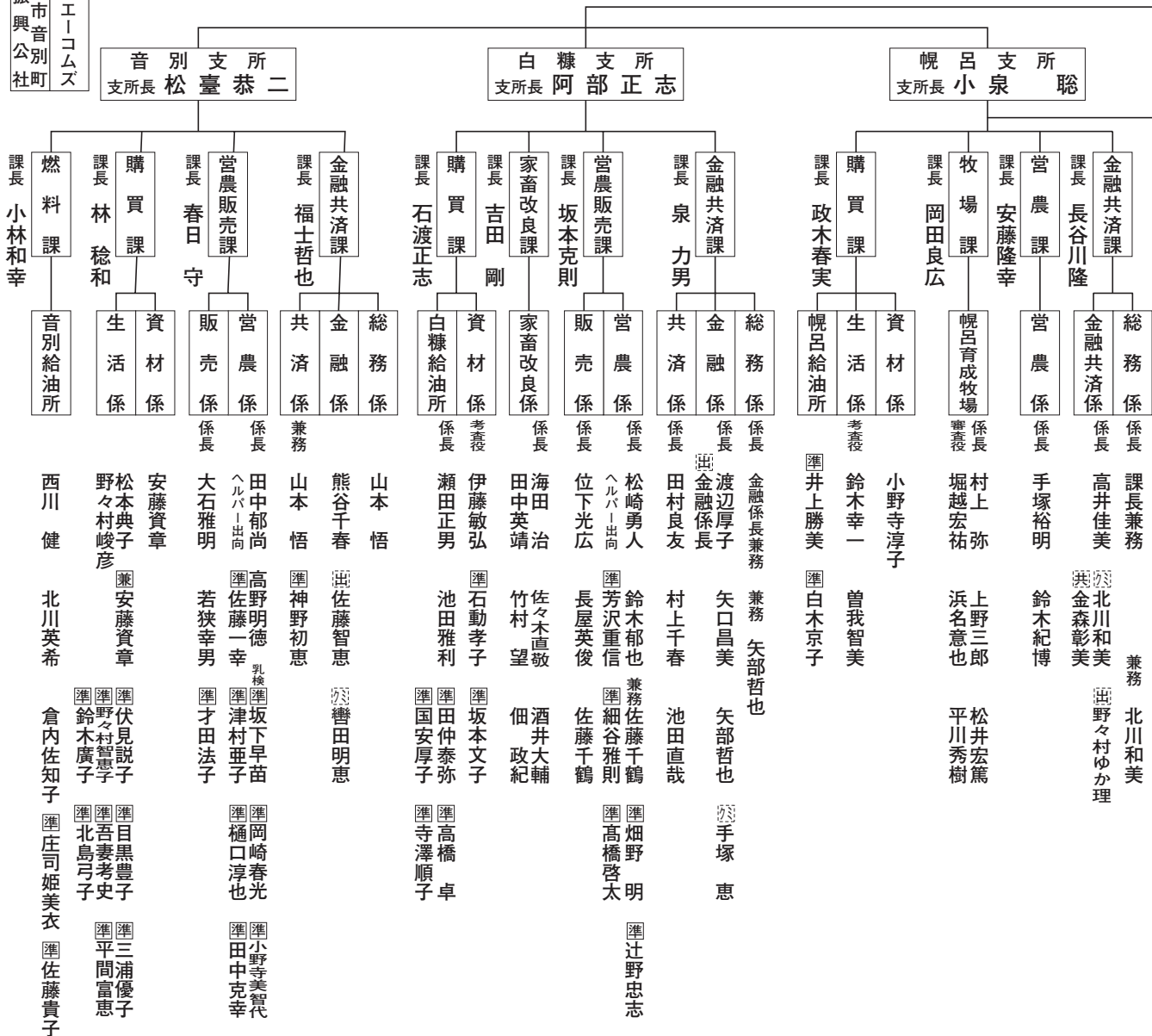
白糠町農村青少年クラブ

会長 小田嶋 秀明





区 分	男	女	計
正職員	88	27	115
準職員	18	32	50
計	106	59	165



JAくしろ丹頂 年始日程表

年月日	部門	各地区の事務所			販 売			家畜改良 鶴居・幌呂 白糠・音別	生 乳	哺育育成 センター	幌 呂 育成牧場
		管理・共済	金 融	営 農	鶴居・幌呂	白 糠	音 別				
平成24年 1 月 1 日(日)											
1 月 2 日(月)								業務始め*			
1 月 3 日(火)											
1 月 4 日(水)			業務始め		業務始め 初生集荷	業務始め 初生集荷					
1 月 5 日(木)					定期市場（初セリ）		業務始め				
1 月 6 日(金)		業務始め		業務始め			初生集荷				
1 月 7 日(土)											

年月日	部門	購買・鶴居			購買・幌呂			購買・白糠		購買・音別		
		生活店舗	給油所	資 材	生活店舗	給油所	資 材	給油所	資 材	生活店舗	給油所	資 材
平成24年 1 月 1 日(日)												
1 月 2 日(月)												
1 月 3 日(火)			業務始め			業務始め*						
1 月 4 日(水)	業務始め							業務始め 午後6時まで		業務始め 午後6時まで	業務始め	
1 月 5 日(木)										午後6時まで		
1 月 6 日(金)				業務始め	業務始め		業務始め		業務始め			業務始め
1 月 7 日(土)												

*午前中のみ営業となります。

営 業 日	休 業 日	1/7(土)は、全業務午後4時までの営業となります。
-------	-------	----------------------------

・ 万一、交通事故が発生した時は、フリーダイヤル (☎0120-25-8931) に電話をして下さい。事故の受付とアドバイスをしてくれます。

◆鶴居地区の皆様へ

- ・ 生産資材に関することは、菊地雄次課長(65-2207)に連絡して下さい。
- ・ 万一、配合飼料が無くなった時は、大松運輸 (57-8388) に連絡して下さい。

◆幌呂地区の皆様へ

- ・ 生産資材に関することは、政木課長(64-2730)又は小泉支所長(65-2424)に連絡して下さい。
- ・ 給油スタンドに関することは、政木課長(64-2730)に連絡して下さい。
- ・ 万一、配合飼料が無くなった時は、北釧運輸 (23-7680) に連絡して下さい。

◆白糠地区の皆様へ

- ・ 生産資材に関することは、石渡課長(自宅2-3515 携帯 090-3396-0623)に連絡して下さい。

- ・ 給油スタンドに関することは、給油所(2-2084)に連絡して下さい。
- ・ 万一、配合飼料が無くなった時は、幸永運輸 (0154-57-2777) に連絡して下さい。

◆音別地区の皆様へ

- ・ Aコープは1月4、5日は午後6時までの業務となります。
- ・ 生産資材に関することは、林課長(6-2529)に連絡して下さい。
- ・ 万一、配合飼料が無くなった時は、幸永運輸 (0154-57-2777) に連絡して下さい。

◆人工授精業務、年末年始の対応について

- ・ 12月31日及び1月2日の人工授精業務につきましては、午前9時30分までの受付分(厳守)対応となりますので、よろしくお願い致します。

- ☐ 新年明けましておめでとうございます。本年が皆様方にとりまして、良い一年となりますよう心からご祈念申し上げます。
- ☐ 表紙の写真は、鶴居村中幌呂から撮ったもので、高台から望む日の出は絶景でした。
- ☐ 本年も、広報誌「たんちょう」をよろしくお願い致します。

編 集 後 記
EDITOR'S NOTE